

身体障害作業療法学実習

[実習] 第3学年 後期 必修 1単位

《担当者名》 本家寿洋 honke@hoku-iryo-u.ac.jp 坂上哲可 桜庭聡 齋藤隆司 伊藤耕栄 (特別講師)

【概要】

身体障害作業療法で学んだ知識や技術を基に、各疾患別の事例を使用して作業療法の評価、治療方針、治療目標、治療プログラム、治療経過、再評価までの流れを経験し、各疾患別の作業療法事例を検討する。

【学修目標】

【一般目標】

事例を通して各疾患における作業療法の評価、利用方針、治療計画、治療経過、結果、考察の記載の仕方を理解することができる。

【行動目標】

1. 身体機能障害の治療原理を説明できる。
2. 各疾患における評価項目の抽出ができる。
3. 各疾患における作業療法計画立案ができる。
4. 各疾患における治療経過および結果が記載できる。
5. 各疾患における作業療法を実施した結果をもとに、事例の考察ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	臨床実習の展開	評価から再評価に至るまでの過程を学ぶ。	本家寿洋
3) 6	脳血管障害治療・事例演習	脳血管障害の治療と事例演習を実施する。	本家寿洋
7) 8	IVES・tDCS・ボトックス治療における作業療法	IVES・tDCS・ボトックス治療における作業療法の治療を学ぶ。	桜庭聡
9) 10	COPD・がんの作業療法	COPD・がんの作業療法の治療と事例演習を実施する。	本家寿洋 齋藤隆司
11) 12	脊髄損傷・末梢神経損傷の作業療法	脊髄損傷・末梢神経損傷の治療と事例演習を実施する。	坂上哲可
13) 14	骨折・腱板損傷の作業療法	骨折・腱板損傷の治療と事例演習を実施する。	桜庭聡
15) 16	RA・パーキンソン病・SCD・ALSの作業療法	RA・パーキンソン病・SCD・ALSの治療と事例演習を実施する。	坂上哲可 桜庭聡
17) 18	心疾患の作業療法	心疾患の作業療法の治療と事例演習を実施する。	本家寿洋 伊藤耕栄 (特別講師)
19) 23	人間作業モデルを使用した作業療法	人間作業モデルの理論を学び、人間作業モデルを使用した事例演習を実施する。	本家寿洋

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（筆記試験100%）で評価する。

定期試験、追再試験実施後、問い合わせがあった場合には答案を開示し、勉強方法について指導する。

【教科書】

濱口豊太 編 「標準作業療法学 作業療法臨床実習とケーススタディ」 医学書院 2020年

【参考書】

山田孝 編 「高齢期領域の作業療法」 中央法規 2016年

安保雅博 他 著 「脳卒中後遺症に対するrTMS治療とリハビリテーション」 金原出版 2013年

森岡周 著 「リハビリテーションのための認知神経科学入門」 協同医書出版 2019年

富永孝紀 他 著 「リハビリテーション臨床のための脳科学」 協同医書出版 2014年

矢谷令子 他 編 「作業療法実践の仕組み」 協同医書出版 2014年

山本伸一 編 「作業療法における上肢機能アプローチ」 三輪書店 2014年

伊藤克浩 他 編 「重度障害者への活動分析アプローチ上 基本的介入のあり方から治療展開へ」 青海社 2013年

【学修の準備】

- ・基礎医学や評価法および身体障害作業療法など1年～3年で学んだ講義を復習して臨むこと。
- ・予習では、各テーマに該当する教科書を読んで講義に臨むこと(80分)。
- ・復習では、講義で学んだことを説明すること(80分)。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

本家寿洋（作業療法士） 坂上哲可（作業療法士） 桜庭聡（作業療法士） 齋藤隆司（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、担当する講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している